羅針盤　vol.63

校長　白岩博明

３月１日（水）、高校の卒業式が行われ、３年間の学びを終えた１９０名の生徒が巣立ちました。

本文に記したように、２０２０年４月に入学した今年度の卒業生は、”コロナ禍”を過ごさざるを得なかった生徒たちでした。休校や分散登校があったり、オンライン授業が行われたり、行事の延期や中止が相次いだり…、制限や我慢という言葉をどれだけ耳にしたことか。

それでも生徒たちは諦めることなく、自分の将来を見据えて進路実現に向けて取り組みました。遅くまでの自学自習に取り組んだ生徒、先生方の指導に食らいついた生徒など、今まで見ぬ光景が散見されていました。そんな高校３年生を誇らしく思っていました。その努力が報われるときが必ず訪れるからね。（右は、卒業式での一コマ）

偶然の出来事を大切に

冬の寒さをあとに三寒四温を繰り返し、やっと春らしさが訪れようとしています。

卒業生のみなさん、卒業、おめでとうございます。

保護者のみなさま、ご子女のご卒業、誠におめでとうございます。また、この3年間を通じ、本校の教育活動にご理解とご支援を賜りましたことに深く感謝申し上げます。そして、ご多用の中をご臨席いただきましたご来賓のみなさまに、心から御礼申し上げます。

3年前の2020年、世界に広まった新型コロナウイルス感染症は、日常生活や学校のあり方を揺さぶりました。みなさんが本校入学前の2月末には、全国すべての学校に一斉休校が突然発表され、入学後には緊急事態宣言による休校や分散登校が続き、学校らしさを取り戻したのは6月でした。以来この3年の間、制限や自粛に伴って学校生活や行事などの延期や中止が相次いだことは非常に残念でなりません。しかしながら、こうした状況にあっても、希望の灯りを絶やさず、努力し続けたみなさんを誇りに思います。

さて、私たちは今、将来を予測することが困難で、これまでの常識を覆すような社会変化が生ずる時代に差し掛かり、生活様式や価値観を一変させてしまうかもしれない状況に直面しています。このような時代において、卒業生のみなさんは、将来の自分のキャリアプラン、人生設計をどのように描いていったらいいのでしょうか。

先日、アメリカの心理学者、クランボルツが提唱する「計画的偶発性理論」という考え方に出合いました（注）。大学や専門学校の受験や就職を決定するためには、目標を定め、計画を立てた行動が求められます。ところが、5年10年先以上の目標や計画に及ぶ場合には、社会や周辺の環境などの変化が伴うことから、同じ発想や考え方では対応できません。クランボルツは、長期にわたる個人のキャリアは、偶然の出来事や出会い、ご縁などで決まっていくことが圧倒的に多く、8割近くは偶然の出来事によって形成されると言っています。しかし、偶然の出来事は待っていては訪れることはなく、それを呼び込むための努力が求められるのだというのです。そのために、クランボルツは5つの行動が必要だと言っています。

◇様々なことに興味を持ち、アンテナをはっておく、好奇心。 ◇うまくいかなくても諦めず、努力を続ける、持続性。 ◇何かにこだわり過ぎず、多様な考え・価値観を受け入れる、柔軟性。 ◇何が起きてもうまくいくと信じる、楽観性。 ◇先が見えなくてもリスクを恐れず、行動を起こす、冒険心。 といった行動です。

このことによって人は良い出会いやご縁に巡り合い、キャリアも人生も豊かな良いものになっていくというのです。予測困難な時代、また、社会変化が著しい昨今、柔軟かつ強靭で、謙虚な姿勢を持ち合わせ、偶然の出来事を大切にすることによって自分を育み、磨き続けていくことを願っています。

そして、加えて、本校の校名である「協創」を内に秘め、実践することを願っています。「協創」とは、自分と関わる他者と「認め合い、深め合い、高め合う」ことによって、新たな価値を見出すことです。いかに時代が変化しようとも、「人とつながる」ことは不変です。グローカル・イノベーション・リーダーとして、「協創」する人であることを心から念じています。

結びにあたり、卒業生並びにご参列いただいたみなさまのご健勝を祈念して式辞といたします。

（注）『月刊高校教育増刊』学事出版 「与論高校はなぜ定期考査と朝課外をやめたのか」P28・29を参照する。